

## 烏帽子の会による冠着山（1,252m）山行

2017年4月1日

烏帽子の会3月例会は、4月1日にY.M.・J.S.両氏のリードの下、冠着山（別名姨捨山・更科山）登山で開催された。総勢14名にて松川道の駅を7:40、3台に分乗し出発。途中冠着駅にて猫の駅長さんにご挨拶。当初鳥居コースを登る予定であったが、2日前の積雪の影響で断念、最短の一本松峠コースに変更、しかし道路も雪にふさがれ、車が進める所迄で駐車、9:00に登山スタート。深い雪の中ラッセルを交代しながら進む。



冠着駅、猫の駅長さん



深い雪の中、Y.M.リーダーのもと1列で進む一行



4月とはとても思えぬ雪景色



ようやくたどり着いた一本松峠登山口

深い雪の道路を1時間弱歩き、ようやく一本松峠登山口に到着。そこから本来の登山コースに入り、約50分10:50に頂上到着。冠着山の名前のいわれは下記の通りと伝えられている。

「天照大神がお隠れになった天の岩戸を、天の鈿女命の踊りで大騒ぎ、外のにぎやかさに岩をそっと開いて覗かれた天照大神、その隙に、馬鹿力で岩戸をこじ開けた手力男命がその天の岩戸を背負って天翔（あまがけ）て、戸隠へ向かって飛んで来たところ、途中あまりにも美しい峰に心ひかれ、ここでひと休みしようと山頂で冠をつけ直した」というものである。



頂上での雪を避けての昼食風景



頂上での集合写真



美しい棚田風景

11:45 に下山開始、一部の人は軽アイゼンを装着、下りはスムーズで 13:00 に車停車位置に到着。その後「田毎の月」棚田で有名な姥捨公園へ向かい、棚田の間を散策。各田棚にすべて月が映ると思っていた我々に自分の目で見えるのは、自分の位置からただ一つの田だけで、自分が動く事で田に映る月も田毎に動くと聞き、大変勉強になった。月にからむ句の碑が多くあり代表例を示す。  
「おもかげや 姥ひとりなく 月の友」

芭蕉

姥捨公園を 14:45 出発、上山田温泉「かめ乃湯」で疲れを癒し、松川道の駅へ 17:20 到着、心地良い疲れの下に楽しい雪歩きの 1 日に感謝し家路についた。 Y.M.ご夫妻、J.S さん本日のお導き有難うございました。

「なごり雪 踏みしめ登る 冠着山 真白き世界に 驚きの春」